

ビル建設期間中におけるネズミ防除の取り組み

濱谷 剛（アベックス産業株式会社）

1. はじめに

近年、クマネズミの被害は東京都などの大都市だけでなく、それらの近郊などへと拡大している。クマネズミは、登攀力に優れているため、超高層ビルの最上階へも移動することが可能であり、高層ビルにおけるネズミ防除は必要不可欠なものと言える。特に飲食施設では、ネズミの餌となる食糧が豊富にあるため、ネズミが侵入し、繁殖することが多く、その駆除には大変な労力を要する。建築物完成後1年以内にネズミの侵入が確認された建築物は少なくなく、建築期間中に侵入していたケースも見られる。

今回、建築期間中からネズミ対策を行なう機会が得られたので、その経過を報告する。

2. 実施方法

(1) 実施場所

東京都内の某建築物

建築物の概要：平成16年2月より着工。地上30階以上、地下2階、延べ床面積10万㎡以上

周辺環境：JR線沿線にあり、他の建設工事現場と隣接し、近隣では解体工事も行なわれた。

(2) 実施期間

平成17年11月より開始し、現在も継続中である。

(3) 実施内容

平成17年11月4日、事前調査として工事敷地内を調査した。同年12月4日、事前調査の結果に基づき、工事事務所周囲及び仮囲い内周の合計21箇所に毒餌箱（図1）を設置した（図2）。毒餌箱内部には殺鼠剤（有効成分：クマテトラリル0.025%）及び圧殺式トラップをセットした（図1、3）。

これら毒餌箱は、約1ヵ月に一度の割合で殺鼠剤の喫食状況と

捕獲状況の確認をし、喫食のあった

殺鼠剤（図4）の交換及び捕獲されたネズミ（図5）を撤去し、再び設置した。

3. 結果及び考察

結果を表1に示す。9月施工までに4ヵ所で4頭のクマネズミを捕獲。殺鼠剤は8ヵ所で喫食が見られた。特にNo.3では喫食が多く見られた。No.3は工事事務所の売店裏であり、空缶やゴミが一時保管されているため、ネズミが誘引されているものと思われた。また、この仮囲いの外には飲食店舗があ

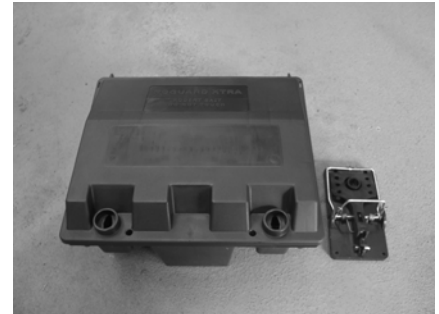


図1 毒餌箱（左）と圧殺式トラップ（右）



図2 毒餌及びトラップ設置状況

表1 殺鼠剤の喫食状況及び捕獲数

No.	12/7	12/22	1/26	2/28	3/29	4/28	6/1	6/29	7/28	8/29	9/29
1	—	—	—	—	—	4	—	—	+	—	—
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	+	3	—	+	+(1)	+	+
4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—	—(1)	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	+	+	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+(1)	—
10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	—	—	—	—	+	+	—	—	—	—	—
12	—	—	—	—	—	—	+	—	—	—	—
13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
16	—	—	—	—	—	1、2	—	1、2	—	—	—
17	—	1	—	—	—	+	—(1)	—	—	—	—
18	—	1	—	—	—	+	—	—	—	—	—
19	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—
20	—	1	—	2	—	1、2	—	—	—	—	—
21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
捕獲数合計	0頭	0頭	0頭	0頭	0頭	1頭	1頭	0頭	1頭	1頭	0頭

—は殺鼠剤の喫食がなかったことを示す。（ ）内は捕獲数を示す。

1：設置場所を移動した。 2：毒餌箱が雨により水没していた。 3：毒餌箱内にネズミの糞があった。 4：圧殺式トラップにネズミの毛があった。

るため、そこから仮囲いの隙間を通り侵入している可能性が考えられた。

4．今後の課題

本調査によりビル建築中にも外部からネズミが頻繁に侵入していることが明らかになった。しかし、これらを防除し、竣工後も快適な環境を維持していくためには、以下のことが不可欠と言える。

(1) 外部からの侵入防止

ネズミの防除において重要なことは、建築物内に侵入させないこと、ネズミの侵入があった場合、それを早期に発見すること、発見後速やかに駆除することである。

建物内に侵入させないためには、建築物の外周においてネズミが侵入できる隙間や穴などを全て封鎖することが必要である。しかし、竣工後の建築物ではそれら全てを発見することが非常に困難であり、例え発見できても侵入を完全に防止できないこともある。一方、建築中であれば、これらの隙間や穴を確認し、封鎖することは容易であるといえる。

これまでネズミの侵入を完全に防止することを考えて設計し、建設された建築物は少なく、今後このような考えに基づき設計し、建築されることが必要と考える。

(2) 建物内部での移動防止及び室内への出没防止

ネズミが建物内に侵入した場合、その被害を最小限に食い止めるよう予め処置しておくことも必要である。これについても(1)と同様に設計に組み込み、建築期間中に隙間や穴などを封鎖することが望まれる。

(3) 建物の維持管理権原者の理解促進

クマネズミは、警戒心が強いいため、殺鼠剤やトラップによる捕獲だけでは駆除が難しい。そのため、衛生管理や侵入防止など施設や設備の改善を含めた総合的な対策（I P M：総合的有害生物管理）が欠かせない。従って、建物の維持管理権原者が対策の中心となって実施することが必要である。

(4) 衛生管理体制の構築

衛生管理が徹底されているところではネズミの発生が少なく、発生しても駆除は容易となる。このような衛生管理体制をテナントに徹底させることは困難であるため、入居する前に予めルールを作成しておくことが重要である。

5．まとめ

建築物衛生法では、建築物完成後のネズミ等の防除については規定されているが、建築中の防除については触れられていない。本調査により、ビル建築中に外部からネズミが頻繁に侵入していることが明らかになった。今後は建設段階において侵入口を確認し、封鎖を提案するとともに、テナント入居前に衛生管理体制を整備し、I P Mによるネズミ対策が円滑に進むよう検討していきたい。

参考文献

- 1) 厚生労働省健康科学総合研究事業：「建築物におけるねずみ・害虫等の対策に関する研究 平成 17 年度総括・分担研究報告」pp145 2006 年
- 2) 元木貢：ビルと環境第 111 号 pp15～20 2005 年

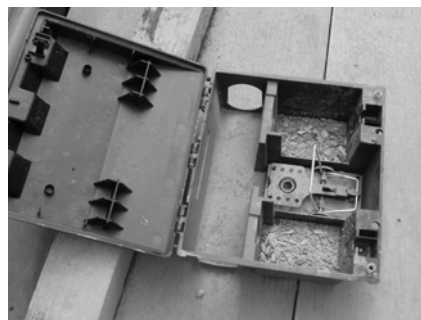


図3 毒餌箱内部



図4 殺鼠剤を喫食した様子



図5 捕獲された様子